

## 躍動カフェ（丹波地域） 議事要旨

### 1 概要

- (1) 日時：令和7年1月30日（木）13:00～15:40
- (2) 場所：ユニトピアささやま レイクホール（丹波篠山市矢代 231-1）
- (3) 参加者：齋藤知事、丹波地域（丹波篠山市、丹波市）に在住・在学・在勤等しており、移住、起業、地域産業・特産品づくり、農業、観光など各方面で活躍する24名
- (4) テーマ：選ばれている地「丹波」で挑む、  
出会いや交流を活かした新しいイノベーションの創出
- (5) 内容：グループ別ワークショップ（A～Eグループ）  
知事挨拶  
意見発表・質疑応答（A～Eグループ）  
知事総括コメント

### 2 意見発表の内容

#### A 移住（移住先進地域の次なる移住方策）

発表者：中川 ミミ（進行役）

##### 現状と課題：

- 日常生活において多少の不便さはあっても、都市部にはない豊かな住環境が手に入るところに、丹波地域に移住する価値があると考えている。
- より多くの人々の理想とされる暮らしができる地域となり、そのようになり続けるためには、不動産物件の需要と供給のギャップが課題の一つ。丹波地域には空き家があるものだと思って移住を希望する人もいるが、実際は全く供給が足りておらず、そもそも空き家の情報があまり流通していない。
- 丹波地域に移住してみたものの、合わなくて出ていく人もいる。

##### 課題解決に向けて：

- 丹波地域の価値やポテンシャルをより多くの人に伝えることができれば、さらに選んでもらえる地域、長きにわたって継続していく地域になるのではないかと。
- 空き家情報の流通を阻む要因として、物件所有者・地域・移住希望者間での情報共有ができていないことが挙げられる。関係者間で円滑なコミュニケーションを取り、共有認識を高めていくことが空き家情報の流通につながり、移住希望者の受入れにもつながる。
- 不動産物件の需要と供給にギャップがあるのなら、空き家にこだわらず、戸建てやシェアハウスなど、多様な住まいのあり方が選択できればよい。そのためには、賃貸といった方法などでの空き家活用について物件所有者に理解してもらえるよう、物件所有者と地域の人達との間でしっかりとコミュニケーションを取っていくことが大事。

- 移住前はもちろん、移住後の一定期間も「お試し移住期間」として、移住してきた人にとって理想の暮らしとなっているか、見つめなおせる時間を設ける。それが移住、そして定住にもつながっていくと考える。

#### 質疑：

- 丹波地域でより多くの人に理想の暮らしをしてもらえるよう、具体的にこんなサポートがあればいい、というものがあれば教えてほしいです。

#### 応答：

- 移住して住まいを買っただけで、そこが「ホーム」になるわけではない、と考える移住者がいるのであれば、例えば、自分が理想とする暮らしや働き方などを実践しているコミュニティに属してみることによって、自分の充実した暮らしの実践の場を広げられるといいし、地域としてはできる限りサポートしてあげることが重要だと思います。

## **B 女性活躍・起業（女性の活躍や起業がしやすい環境づくり）**

発表者：植野 さやか（進行役）

#### 現状と課題：

- 丹波地域が老若男女問わず、女性にも起業の地として選んでもらえるためには、例えば、コワーキングスペース補助などのハード面に対する支援は行われているが、ソフト面の支援については改善の余地があると考えます。
- 新たに起業を始めたものの、様々な状況の中で続かない個人事業主もいたりするので、そのような人のフォローアップが必要。
- 女性起業家に特化したスキルアップセミナーの運営に携わった際、起業してみたいと思っても、なかなかその一歩が踏み出せない人がいた。起業へのハードルを下げなければならないと思った。

#### 課題解決に向けて：

- ソフト面の課題として、コワーキングスペース利用者間のコミュニティづくりのサポートが必要と考える。立場の異なる人や業種、団体などで生まれるコミュニティから、何か新しい価値が生み出されることもあり、それは民間や行政としても望ましい。
- 新たに起業を始めた人へのフォローアップとして、起業した後も何でも気軽に相談できるメンター制度などがあれば、それが支えとなって起業を続けられたり、違った形で仕事を続けられたりするかもしれない。オンラインで家事の合間に実施するなど、カウンセリングのあり方が多様化してきているのはとてもよいこと。
- 起業のハードルを下げるために、自分がやりたいことを応援してくれる団体がいればもっと起業しやすい環境になる。

例えば、「週末起業」、「おうち起業」など、様々な起業の形態に見合ったセミナーができればよいし、都市部と丹波地域で活動する「二拠点ワーカー」を誘致する環境を、行政と民間が協力して構築していけるとよい。

## 質疑：

- 女性限定の起業支援施策について、何か具体的な案があれば教えてほしいです。

## 応答：

- 女性による起業の場合、特に、子育てしながらという場合には、やはり、助け合える仲間が必要になってきます。例えば、子供が熱を出して自分では対応できないときには、スキルのあるあの方にお問い合わせ、といった助け合いがとても大切です。また、女性のためのセミナーやリカレント教育などによって、起業に対するハードルを下げるとともに、女性起業家のネットワークづくりも必要だと思います。

## C 産業振興（地域産業の持続的な発展）

発表者：湯山加奈子（進行役）

### 現状と課題：

- 丹波地域には中小企業が多く、これらの企業は、省力化・自動化といった部分への投資が資金面で難しい。また、設備補助はある程度金額が大きいと受けられるものが多いが、補助を受けられる条件が厳しい。
- 中小企業にとって雇用は大切。どの地域にも言えることだと思うが、労働力の確保に課題があり、丹波地域においても地元での就職率を高めていく必要がある。
- 丹波地域の魅力はやはり「食」。この時期だと牡丹鍋やぜんざいフェアなどが行われているが、より良い情報発信のため、地域の中でのブランディングが必要。
- 業種や分野にかかわらず、丹波地域全体でもっと一緒に取り組んでいく仕組みが必要。

### 課題解決に向けて：

- 設備補助の対象条件について、例えば、デジタル化につながるような設備なども補助対象とし、デジタル化・IT化等を進めることで、各企業の利益につながる仕組みを整備してもらいたい。
- 丹波地域内の会社の魅力を知ってもらうため、企業展示会やインターン制度などで、実際に就職希望者に魅力を伝えられるとよい。  
また、丹波地域は高卒採用が多く、親御さんに理解してもらうことも大切なので、親御さんにも知ってもらえるような取組が大事。
- 丹波地域の「食」は、海外へ発信していけるようなポテンシャルを秘めているが、一企業だけでは限界があるので、行政で何かサポートしていただければありがたい。
- 丹波地域内で企業間のマッチングをしていくなど、横の連携を取りながら、それぞれの顧客を取り込んでいけるとよい。

**質疑：**

- 採用や人材確保に関して、グループの皆さんが工夫されているところがあれば教えてください。

**応答：**

- おそらく地域全体の共通課題ではないと思いますが、将来にわたって続けていくために、いかに地元の人たちをしっかりと確保していくかが課題です。例えば、市主催で、市内の3つの高校に対して、毎年必ず1回、企業紹介のイベントが開催されており、私の会社も参加しました。そういった、学生と直接、対話形式で企業の話をするというのは、いい取組だと思いました。また、子どもたちが会社訪問し、実際に現場で一緒に仕事を体験できる機会を増やしていくと、一度出ていったとしても、就職時に再び丹波地域に戻ってきてくれる大きなきっかけになるのではないかと思います。

**質疑：**

- 特に地域の外に対して、企業の魅力を発信するような取組やアイデアについて意見交換がなされていれば、具体的に教えていただきたいです。

**応答：**

- 丹波地域にはブランド食材がたくさんありますが、私の洋菓子店では、丹波のブランド力や、自社の企業価値を高めるために、自社で栗を栽培しています。加工業者や、製造・販売業者が農業に携わることで、ブランド力をさらに高めていきたいと思っています。

**質疑：**

- グループの皆さんが、丹波で起業するに至ったきっかけについて教えてください。

**応答：**

- 私は8年前に丹波篠山市でクラフトビール製造の起業をしましたが、都会でやるには家賃高く、田舎で伸び伸び暮らしながら、というところで篠山を選びました。また、神戸からのアクセスも良く、事業もやりやすいと考えたのもきっかけの1つです。

**D 農業（丹波ブランド農産物の持続的な発展）**

発表者：原 智宏（進行役）

**現状と課題：**

- 農業分野において、技術的なところで言えば、温暖化による気候の変化への対応に大変困っている。また、獣害にも困っている。
- 労働力の問題もある。持続可能という意味で農業を続けていくというところに関しては、新規就農者にどのようにアプローチしていけばいいのか、また、どのように横のつながりを作っていけばいいかが課題。
- 農業については色々なやり方があり、必ずしも専業である必要はないと考えている。我々としては、兼業農家を生かしていく、減らさないように、社会全体で取り組んでいくべきと考える。例えば、兼業農家の人にとって、農機具の価格の高さは、農業を続けていく上でのハードルの一つになっている。

- 丹波地域は農業におけるブランド力がとても高いが、どのように生かしていくか。

### 課題解決に向けて：

- 温暖化による気候変動に対応するためには、スプリンクラーの活用など、農業インフラの整備（水の確保）が必要。作物の体質を変え、品種改良をしていくことも大切。
- 獣害が出にくい環境を整えられるとよいが、現状は厳しいので、獣害が出た場合でも、農業保険で支えてもらえることが我々農家にとって必要。
- 新規就農者に声をかけた後、どのように展開していくのかということも、我々にとって非常に難しい問題なので、課題解決につながるプラットフォームがあればよい。
- 兼業農家を続けてもらうために、我々のような農業法人がコントラクター事業（農作業委託）を展開することが重要。兼業農家にとって、労働負担の軽減や省コスト化にもつながるなど、安心して農業ができる。そういった兼業農家の一つの経営モデルを作っていきたい。
- 観光にも言えることだが、丹波市と丹波篠山市の特徴や魅力は似ており、例えば、どう丹波地域にお金を落としてもらおうか、いかに宿泊してもらおうかといったように、丹波地域が一体となって課題解決に向けて取り組んでいけるとよい。
- ここに5つの分野のグループがあるが、それぞれが混ざり合って話し合うことで、課題解決にもつながると感じた。例えば、誰でもピンポイントの作業などで農業に携わってもらえることができる。女性も大歓迎といったように、多様な働き方ができる環境がある。こういった話を農業の世界だけでなく、それ以外の方も含めて全体でできればよい。

## E 観光（万博後を見据えたFPの活用方策）

発表者：吉良 佳晃（進行役）

### 現状と課題：

- 万博後を見据えた取組として、「広がり・つながりを本質的なものにしていかなければならない」というのが我々フィールドパビリオンプレイヤーの共通認識。つながることや、一堂に会することはあっても、そこからどのように新たな展開を進めていくかとなると、共通点がなく、いざ何か活動をしようとしても、時間がかかり、なかなか実現しない。
- 丹波地域へのアクセスについて、都市部から近いことは、メリットである一方、近いがゆえになかなか長期滞在してもらえないという課題もある。
- それぞれが多様なコンテンツをもっているが、一つの企業だけで発信していくことは難しい。

### 課題解決に向けて：

- 万博後をどうするかは大きなテーマであるが、一つの打ち上げ花火で終わるのではなく、この事業をきっかけに、当たり前の日常・当たり前の仕事にシフトしていくことが大事。また、万博準備期間中・開催中の取組をトライ・アンド・エラーしていく機会にしていきたい。

- フィールドパビリオンという一つのきっかけによって、危機感をもって、チャレンジしていかなければならない。
- 丹波地域に長期滞在してもらうための入口として、まずは短い期間滞在してもらい、そこから長期滞在につなげていくことも検討していく。
- このテーブルには、色々な分野の人たちが揃っている。それぞれが取り組んできている分野だけでは狭いかもしれないが、例えば、観光という切り口で様々な発想を取り入れ、それぞれのコンテンツをつなぎ、化学反応を生み出せるような仕組みができればよい。万博開催前・開催中・開催後も、行政や様々な分野の方と連携していくことで、何か形にできればよい。

**質疑：**

- 多様なコンテンツを一元化するというお話がありましたが、具体的なアイデアを教えてください。

**応答：**

- 丹波には魅力的なところが沢山ありますが、いつ、どこに、誰が、何をやっているのか、次にどこへ行って欲しいのか、というようなことを、情報として集約する一つの大きなプラットフォームみたいなものがあればいい、という議論がありました。

**3 知事総括コメント**

- それぞれのテーマ、分野ごとにお集まりいただき、意見発表いただいたことに感謝申し上げます。
- 5つのテーマは、丹波地域にとってどれも大事な分野。
- 本日は、丹波篠山市の福住において、マルチワークによって地域の担い手確保を推進していく組合の認定証交付式が行われた（創造的職人宿場町福住事業協同組合認定証交付式）。これは、丹波地域の価値を発信していく意義のあるもので、県内外問わず、誰もが丹波地域へ来やすい環境づくりにつながっていくものと考えている。
- 意見発表にもあったように、住まいの問題や、移住を受け入れる側のネットワークづくり、地域産業が持続・発展していくための取組など、今日いただいたご意見を県の施策につなげていけるように取り組んでいく。